

陽東地区の人と人、心と心の「かけはし」に…

大震災から10年
これからの心構えと備えを考える

陽東地区自主防災会長 竹内律

あの東日本大震災からまもなく10年、そんな中、2月13日の夜、再び大地震が発生しました。近年は台風や豪雨の災害も頻発しており、私たちは災害と災害の間で生きていることをあらためて実感させられました。

国や県・市は、行政としての防災計画を策定していますが、災害発生時には住民による自発的な活動が重要であり、地域自らが住民の防災や避難活動についてルールづくりすることが求められています。

このたび陽東地区自主防災会では、風水害や地震に備え、地域が自発的に



災害時避難訓練の様子(2019年5月)

とるべき防災対策を「陽東地区防災計画」としてまとめましたので、主な内容をご紹介します。

【家庭での備え】

- ◇家族の安否の確認方法を決めておく
- ◇タイムラインの作成
- ・災害が予想されるとき、又は災害発生後の家族のとるべき行動を「日常、災害発生一日前、災害発生日等」、時系列的にまとめておく。
- ◇木造家屋の耐震診断
- ・家屋の耐震基準が特に強化される前(昭和56年5月以前)に建てられた建物については耐震診断を実施(推奨)

- ◇家庭内のタンス、冷蔵庫等の固定
- ◇水、食料等の備蓄
- ・3日分、できれば一週間分を備蓄する。
- ◇避難する場合の持ち出し物品の備え
- ・マスクや携帯消毒液等、感染症予防グッズを含め最低一夜は避難所で過ごすことも考えて用意する。また寒さ対策も忘れずに。



- ◇情報収集の備え
- ・テレビや携帯電話が使えない場合も想定し、携帯ラジオを含め、複数の情報収集手段を備える。
- ◇隣近所への気配り
- ・一人暮らしの高齢者や障がい者の安否の確認に協力する。

- ◇避難所の開設
- ◇陽東小学校、その他近隣の小学校、

中学校が避難所として開設されます。

《開設時期》

○風水害時

市役所から施設管理者に避難所の開設が指示されたとき(警戒情報レベル3)

○地震時

震度6弱以上の地震が発生したとき
※陽東小学校は震度6弱のときに避難所開設になりますがこれは陽東地区独自の計画に基づくものです。

※震度5強の地震が発生したとき、自主防災会役員等は、被害状況把握等のため陽東地域コミュニティセンターへ自主集合します。

【避難所の運営】

- ◇小学校初期支援チーム、自主防災会、地区内の各種団体、地域住民、市、避難者が、感染症対策を念頭に、避難所を運営します。

【災害時の自治会の役割】

- ◇住民の安否確認・避難誘導
- ・普段から一人暮らし高齢者や障がい者等を把握しておき、災害が発生したときはこの人達の安否を確認し、状況により、避難所に誘導します。
- ◇初期消火・救助活動に協力
- ・近隣住民が協力し合い、初期の消火活動や救助活動を行います。



健康おさんぽ&ひとやすみマップ



うつのみや百景にも選ばれている遊歩道です。休憩ポイントもたくさんあります。



「かぶとむし公園」の愛称で親しまれています。

細い杉材を組み合わせた外観が特徴。2019年に日本デザイン振興会のグッドデザイン賞を受賞。

ヤマト運輸前とベルモール前にあるベンチは陽東地区社会福祉協議会が手作りしたものです。お気軽にご利用ください。

陽東さくら通りの桜並木は、うつのみや百景にも選ばれています。

コロナ禍の今だからこそ適度な運動を!

感染防止のため外出を控えている方が多いのではないかと思います。家に閉じこもってばかりいると、心身の活力の低下や生活習慣病の発症・重症化の進行にもかかります。

屋外での運動や散歩等は国の方針でも自粛の対象とはされていません。陽東地区には関係者のご協力により、散歩中にひとやすみできるベンチ等も数多く整備されています。

天気のいい日には、このマップを参考に、他の人との適度の距離を保つなど予防対策に留意しながら、散歩にお出かけになってはいかがでしょうか。

陽東地区社会福祉協議会
地域包括支援センター石井・陽東

宇大生が実施したアンケートの結果がまとまりました

— 陽東地域における「地域内交通」の需要等調査 —

アンケートの結果と今後の課題

今後の課題

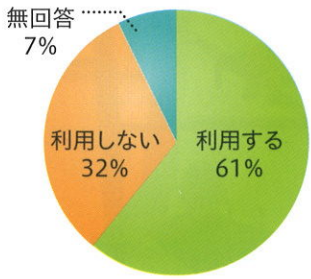
陽東地区まちづくり協議会
4つの自治会対象にアンケート

陽東地区の4自治会（東峰西、東峰中東、中久保、桜が丘のうち東部地区）を対象に、宇大の地域デザイン科学部の学生が実施したアンケートがまとまりました。回答数320世帯（回収率57%）のうち、60歳以上の349人のデータを分析しました。

地域内交通とは

地域内交通は、高齢化の進行への対応や公共交通空白地域の解消を図るために宇都宮市が推進している取組で、地域が運営主体となり、乗合タクシーなどを使って地域内をきめ細かく運行し、スーパーなどの商業施設や医療機関などへの移動手段となるものです。石井地区の市街地では、連合自治会等による組織を運営主体として昨年4月から市街地内の決まった

〈図1〉地域内交通の利用



乗り合タクシーのイメージ

ルートを走る
定時定路方式の「ぐるっと石井号」が試験運行されています。今回のアンケートは、この「ぐるっと石井号」と概ね同様の

内容（運行方式、運賃、運行時間、停留所数等）になるとの想定で、ただし陽東地区内の具体的な運行ルートや停留所の場所等は未定という前提で利用希望等を探る内容の調査となりました。

61%の方が利用に前向き

「地域内交通が運行されたら利用しますか」の問いに半数以上の方が「利用する」と回答しており、地域内交通への関心の高さがうかがわれました。（図1）

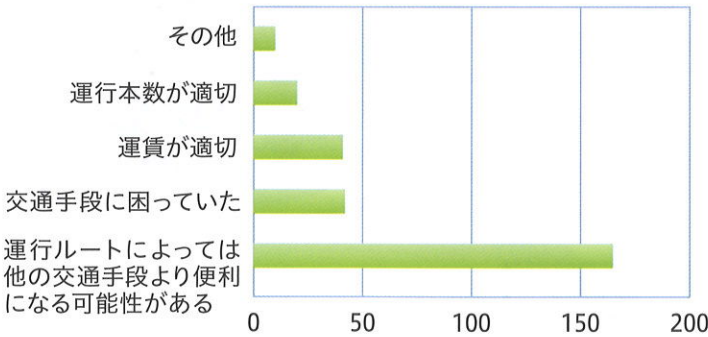
運行ルート次第で利用動向に影響
利用すると回答した方にその理由を尋ねたところ、「運行ルートによっては他の交通手段よりも便利になる可能性がある」というのが最も多い理由でした。（図2）これは、運行ルートや停留所の場所次第では逆に利用しない方が増える可能性も示唆しています。

アンケートで見た課題

地域内交通を実施するには、持続可能な運営を支えるだけの利用

者が見込めることが前提になります。今回のアンケートにより、具体的にどのような運行ルートを設定し、どこに停留所を設置するかが利用者数の動向を大きく左右することがあらためて確認できました。運行ルート等の検討には既存の公共交通との関係を検討することが不可欠ですが、今後LRT開業により2箇所の停留場ができ、また既存バス路線の再編が計画されていますので、こうした影響等を十分見極めながら、今回アンケートの対象となった4自治会だけでなく、陽東地区全体の課題として検討していく必要があります。

〈図2〉利用を希望する理由



宇大生の手作りの木製椅子が「とみくら」へ贈られました



宇大生と東峰西自治会の皆さん

「とみくらみんなのリビング」は、地域に愛されていた「旧とみくら商店」を東峰西自治会と宇都宮大学の学生、民間企業などが協力して憩いの場に再生した建物です。細い杉材を組み合わせた特徴ある外観で、日本デザイン振興会の「2019年度グッドデザイン賞」を受賞しました。誰もが立ち寄れるよう、学生たちが作ったベンチが入口前に設置されていますが、このたびさらに、学生たちから「どうぞご自由にお座りください」のステッカーが貼られた手作りの木製椅子3脚が贈られました。

募集しています!

- 「かけはし」へのご意見や感想、記事に取り上げて欲しい身近な情報など。
 - 「表彰おめでとう」コーナーへの情報提供、推薦。
- ご連絡は、陽東地域コミュニティセンター（☎662-6269）まで。